

“わたしのまち”

# 板橋区

## 秋の赤塚で芸術・歴史を感じよう

板橋区立美術館・郷土資料館赤塚植物園を中心にしたまちめぐり

板橋区立美術館周辺には、模型や映像で区の歴史を楽しく知ることができる郷土資料館や、約600種の樹木・草花・山野草が植えられ、四季折々の植物に親しむことのできる赤塚植物園があり、植物園内の万葉・薬用園には、万葉集に詠まれた植物や薬用植物を見ることができます。これからの季節にぴったりの「芸術の秋」におすすめの散策スポットを紹介します。



### 自然の中のアットホームな美術館

昭和54年に東京都23区内初の区立美術館として開設した板橋区立美術館は、赤塚溜池公園・赤塚城址公園の緑の一角にあります。

収蔵作品は、江戸狩野派を中心とした近世絵画、大正から昭和前期の前衛美術、板橋区ゆかりの作家を中心に収集しており、こうした収集活動と連動し、「江戸文化」や、昭和のはじめから戦後にかけて池袋周辺にあった「池袋モンパルナス」と呼ばれた若い芸術家たちのアトリエ村に焦点を当てた企画展等を開催しています。

また昭和56年より、当時美術館の展覧会のテーマとしては全く行われていなかった「絵本原画展」に注目し、毎

年夏に「ボローニャ国際絵本原画展」を開催しています。この展覧会の開催をきっかけに、区とイタリア・ボローニャ市との交流が行われることとなり、平成17年には友好都市交流協定が締結されました。

この「ボローニャ国際絵本原画展」は、イタリアの古都ボローニャで1967年より開催されている展覧会で、世界でも最大級の規模を誇る絵本原画コンクールです。新人イラストレーターの登竜門としてもよく知られ、この展覧会をきっかけに多くの絵本作家が生まれています。

49回目となった今年は、およそ60カ国3000件の応募の中から、日本の



赤塚植物園で見られる  
これからの秋の花

フジバカマ

ホトトギス

シュウメイギク

## 板橋区立美術館

東京都板橋区赤塚5-34-27



美術館から地域の美術館として、工夫した展示や関連イベントを行っています。ぜひ来てみてください。



**アクセス** 都営三田線「西高島平駅」下車徒歩13分、東武東上線「下赤塚駅」・東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄赤塚駅」下車徒歩25分（東武東上線「成増駅」や都営三田線「高島平駅」からバス利用も可能）



美術館では、9月19日から10月18日まで館蔵品展「まあ！オモシロ江戸屏風」展を開催

10作家を含む24か国76作家が入選となりました。  
美術館では、今年も7月4日から8月16日にかけて全入選作品約380点の絵本原画を展示すると同時に、さらに特別展示として、ポルトガルの注目の若手イラストレーター、カタリーナ・ソブラルを紹介しました。  
また、会期中には、講演会や対談、



## 赤塚城址の麓にある郷土資料館

子ども向けの制作イベントなど絵本に関するさまざまなイベントも実施されました。  
美術館では、今回の展覧会として、9月19日から館蔵品展「まあ！オモシロ江戸屏風」展を開催します。  
屏風は、間仕切りとしてだけでなく、絵や書を描いて飾ることで、空間の雰囲気を変化させる役割ももっています。  
この展覧会では、所蔵品を中心に屏風という独特の形式に見られる多彩な表現やデザイン感覚を紹介します。  
年間約5万人が訪れる美術館では、開館30周年を迎えた平成21年に美術館

美術館のほど近くにある区立郷土資料館は、区内で出土した考古資料、古文書、民俗資料、古民家などを収蔵・展示し、板橋の歴史を学ぶことができます。郷土に関する歴史や文化をテーマとした企画展・特別展も開催しています。  
常設展示では、模型や映像を用いて、区の自然・歴史・文化などについて詳しく知ることができます。同館のある赤塚周辺はかつて、畑や田んぼの広が

のロゴマークを作成しました。その際に行われたアンケート調査では、美術館の印象を「アットホーム」と答えた人が多かったそうです。  
展示室に上がると大きなガラス窓があり、美術館からは周辺の四季折々の緑を見ることがができます。「だれでもちよつと」のぞいてみたくなる。だれでもちよつとつくつてみたくなるそんな楽しい「板橋区立美術館」というキャッチフレーズのとおり、気軽な雰囲気です。折にふと立ち寄りたくなる美術館です。

る農村地帯でした。年のはじめにその年の五穀豊穰と子孫繁栄を祈願して行われた水田耕作に関わる行事のひとつ、田遊びの神事に関する展示もされています。現在でもこの神事は、毎年2月11日に徳丸北野神社、2月13日には赤塚諏訪神社で夜間に行われています。  
また、模型と映像を複合的に用いて板橋にあったムラの様子を表したパノラマ展示も人気です。そのほかにも、区の地場産業として知られる光学機器

## 板橋区立郷土資料館

東京都板橋区赤塚5-35-25



郷土資料館から南側の高台は中世の城郭赤塚城が構えられた場所です。現在都立赤塚公園として広場と梅林になっており、梅の咲く時期の景観は見事です。



**アクセス** 都営三田線「西高島平駅」下車徒歩13分、東武東上線「成増駅」・東京メトロ「地下鉄成増駅」下車徒歩23分、東武東上線「下赤塚駅」・東京メトロ「地下鉄赤塚駅」下車徒歩25分（東武東上線「成増駅」や都営三田線「高島平駅」からバス利用も可能）

郷土資料館では、9月19日から11月1日まで特別展「武蔵千葉氏」を開催



産業の発展など、近世から戦後の区の歩みも知ることができます。  
9月19日から11月1日までは、特別展「武蔵千葉氏」が開催されます。  
美術館や郷土資料館の近く、都立赤塚公園の辺りは千葉氏が構えた赤塚城があつた場所です。もともと下総国に



郷土資料館では、昭和47年に寄贈・解体移築された旧田中家住宅の有効活用として、「古民家年中行事」が行われている。9月26日から10月4日まではお月見飾りが飾られる

いた千葉氏ですが、内紛により一族が分裂し、康正2年（1456年）、市川城を追われた千葉氏宗家は武蔵国に落ちのび、赤塚城に入りました。以後赤塚郷を拠点に武蔵国内に所領を拡大していき、武蔵千葉氏として知られるようになりました。

この展示は赤塚郷内を中心とする活動はもちろん、武蔵千葉氏のルーツや同氏の妙見信仰を絵巻や仏像などを通して紹介します。

また、近世中期以降の地誌・評論などに見られる武蔵千葉氏の姿についても取り上げます。

資料館の外には150年前に区内にあった農家、旧田中家住宅が移築・保存されており、七夕やお月見飾り、わら細工・しめ縄作りなど昔ながらの年

中行事の様子が見られます。武蔵野の自然の中に残る古民家は趣があり、四季折々の情緒を感じさせると同時に、

周囲の自然と一体となって醸し出す「日本の風景」がどこか懐かしさと安らぎを与えてくれます。

## 自然の中を散策できる赤塚植物園

美術館・郷土資料館の近くにある赤塚植物園は、武蔵野の面影を色濃く残す赤塚の丘陵地を活用し、昭和56年に開園した入場無料の区立植物園です。

ます。

広さは約1ヘクタールで、本園と万葉・薬用園からなり、約600種の樹木・草花・山野草が植えられ、四季折々の植物の表情を楽しむことができます。

本園には多くの樹種が植えられ、その下には野草も可憐な花を咲かせます。芳香のある花木が植えられた「香りの散歩道」や、竹林が訪れる人を静かに迎えてくれる日本庭園もあります。日本庭園には垣根・灯籠・ししおどしなどの見本があり、趣のある雰囲気です。

また、芝生広場では、ケヤキの木陰のテーブルでのんびりとお弁当を広げてくつろぐことができます。

園内の図書室や講習室を併設した管理舎には緑化教育指導員が常駐し、植物に関する相談や調べ物の手伝いをしています。

一方、万葉・薬用園には、万葉集に詠まれた植物や薬用植物が植えられています。万葉集には約160種の植物が詠まれていると言われていますが、案内板には万葉集の歌が書かれていますので、植物と合わせて楽しく学べるようになっています。

これからの季節は、8月から10月に淡い藤色の小花をつけるフジバカマ、秋の風情を感じさせるシュウメイギク、ホトトギスなども見頃です。

また晩秋には紅葉もきれいなので、美術館や資料館で芸術や歴史を満喫したら、自然の中でゆったりと秋の休日をお過ごしのも良いかもしれません。

周辺にはこのほかにも、「江戸名所図絵」にも描かれている松月院や東京大仏で有名な乗蓮寺、赤塚城址などの史跡も多く、手軽な散歩コースとなっています。地図を片手に、1日かけて散策してみたいかがでしょうか。

## 板橋区立赤塚植物園

東京都板橋区赤塚5-17-14



### 赤塚植物園から

冬の朝には、シモバシラ（シソ科の草）の茎に氷結した氷の華が見られます。これを見に遠くから訪れる方も多く、この時期は通常よりも30分はやく開園しています。



**アクセス** 東武東上線「成増駅」下赤塚駅 下車徒歩16分、都営三田線「西高島平駅」下車徒歩20分（東武東上線「成増駅」や都営三田線「志村三丁目駅」「高島平駅」からバス利用も可能）



生い茂る緑に囲まれた、赤塚植物園内の万葉・薬用園の八橋。園内を散策しながら四季折々の自然を満喫できる